

2023 年 9 月 11 日

ウッドデザイン山形視察ツアー報告

一般社団法人日本ウッドデザイン協会
事務局

【開催概要】

内 容: 山形県におけるウッドデザイン賞受賞作品他の視察

日 程: 2023 年 8 月 30 日(水)～31 日(木)

主な視察先: シェルター本社(GLOBAL BOWL)、シェルターインクルーシブプレイス・コパル
天童木工、白鷹町まちづくり複合施設、おきたま木材乾燥センター
シェルターなんようホール、高畠町立図書館、高畠町屋内遊技場「もっくる」
高畠町コワーキングスペース

参加者: 30 名

企画運営: 広報普及啓発部会、ウッドデザイン賞部会、ビジネスマッチング部会

【スケジュール】

月 日	時 間	旅 程
8月30日		
	11:15	山形新幹線「山形駅」改札切符売り場横集合
	11:30～13:00	シェルター本社 Global Bowl 見学、シェルターの取り組み説明
	13:15～14:30	シェルターインクルーシブプレイス・コパル 説明付き見学
	15:00～16:30	天童木工 ショールーム及び工場見学
	16:30～17:00	山形県による「やまがた森林ノミクス」の紹介
	18:30～20:30	懇親会
8月31日		
	8:30	ホテル発
	9:30～10:30	白鷹町まちづくり複合施設(庁舎・図書館) 説明付き見学
	10:45～11:15	おきたま木材乾燥センター 説明付き見学
	12:45～13:45	シェルターなんようホール(南陽市文化会館) 説明付き見学
	14:00～14:40	高畠町立図書館 説明付き見学
	15:00～15:30	高畠町屋内遊技場「もっくる」、コワーキングスペース 説明付き見学

【視察先】

1. シェルター本社及び Global Bowl

シェルター本社ビル

1998 年度グッドデザイン賞受賞

KES 構法をベースに木質構造の大空間をテーマとして、準防火地域で最大規模の木造建築物を目指した。スチールを木で挟んだブレースで水平力を受ける構造とし、開放感のあるプランニングを実現

Global Bowl [シェルターGlobal Bowl](#)

設計 平田晃久建築設計事務所

施工 株式会社シェルター

ウッドデザイン賞 2022 年 受賞作品

他の主な受賞歴

第 26 回木材活用コンクール「部門賞(第 4 部門賞)」

「パビリオン・トウキョウ 2021」の一環として国連大学前に制作、設置された木のお碗のようなパビリオン。座ったり、通り抜けたりする事のできる孔だらけのこちらは、内外の境界をほどきつつ結ぶ、反転する幾何学でできている。木材を 3 次元カットして組み合わせ、力強い物質感と工芸品のような緊張感を生み出す。



👉 シェルターさんの取り組みをご紹介いただいた



👉 大人も乗れる丈夫な作り

2. シェルターインクルーシブプレイス・コパル [シェルターインクルーシブプレイス・コパル](#)

竣工 2022 年 3 月

設計 大西麻貴+百田有希/o+h

施工 高木・シェルター特定 JV、Otias、石川建設産業、タカハシ電工

ウッドデザイン賞 2022 年優秀賞(林野庁長官賞)受賞作品

他の主な受賞歴

2022 年度グッドデザイン賞「グッドデザイン・ベスト 100」

第 16 回キッズデザイン賞「奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞」

日本空間デザイン賞 2022

第 26 回木材活用コンクール「優秀賞((公財)日本住宅・木材技術センター理事長賞)」

2023 年日本建築学会賞(作品)

第 64 回 BCS 賞

第 18 回日本構造デザイン賞

山形市の子育て環境整備の一環として建てられた児童遊戯施設。「障がいの有無や、人種、言語、家庭環境に関わらず、多様な個性や背景を持った全ての子どもたちの遊びと学びの場」という基本方針を持つ全国的にも数少ないインクルーシブ施設で、蔵王連峰の美しい山並みに呼応する雲のような佇まいが特徴的。）

館長に、案内いただいた。

2023 年 8 月は、夏休みもあり、22,000 人が訪れたとのこと。

メイン空間である体育館と大型遊戯場は、カラマツ集成材のアーチ梁が表しとなっており、隠された鉄骨平面トラスフレームにより開放的な無柱空間となっている。室内遊具や外装(軒天)など木材が多様に用いられている。



👉全長 210m。

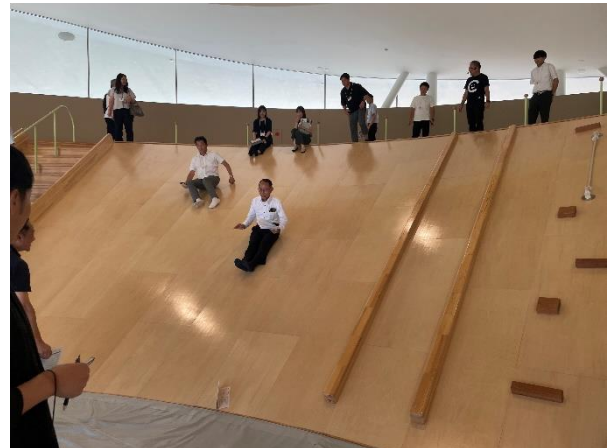
全て曲線の屋根が青空と緑に映えていた。

「心の角が取れる」作り。



👉ドーム型天井の広い体育館

衝突事故がほとんど発生しないそう。また、健全な注意力が養えるよう、やや危険と思われても敢えてそのまま供用している個所もあるとのこと。



👉 大人も楽しめる

👉 ベンチは、木琴として演奏できる工夫が。

3. 天童木工(ショールーム・工場) [天童木工](#)

ウッドデザイン賞

座卓: 2017 年受賞作品

コートハンガー「ALBERO」: 2017 年受賞作品

Roll Press Wood: 2016 年 優秀賞（林野庁長官賞）受賞作品

ラケットチェア: 2015 年受賞作品

ショールームと工場を案内いただいた。工場では、ひとつひとつ丁寧に作業し、作り上げられていた。単板を接着剤で重ね合わせ、圧力と熱を加えて成形する成形合板で出来上がった家具の曲線は、まさに職人技。



👉 ウッドデザイン賞受賞作品が並ぶショールーム



👉 世界的建築家、磯崎新さんがデザインした
モンローチェア

■天童木工さんの会議室で、山形県の方から、森林(モリ)ノミクスの取組みを紹介いただきました。

[やまがた森林\(モリ\)ノミクス](#)



4. 白鷹町まちづくり複合施設 [白鷹町](#)

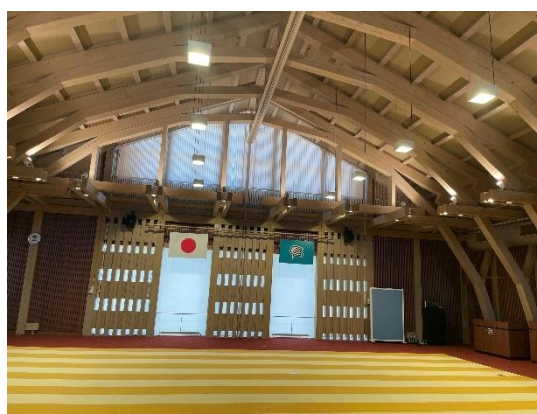
竣工 2020年1月

設計 仙田満+環境デザイン研究所

施工 那須・鈴木特定建設工事共同企業体

令和2年度木材利用優良施設コンクール 内閣総理大臣賞

町内で生産・加工したスギ材をふんだんに用いた複合施設(役場庁舎、図書館、中央公民館)で、集材材は使わずに無垢材のみの設計が特徴。



👉大会議室の折線アーチ屋根

2013～2014 年の豪雨災害によって数トンの丸太が流出し町に大きなダメージを与えたことをきっかけとして、林業活性化施策が取り入れられ、その結果として木造庁舎が実現した。川上から川下までの地域関係者が連携することにより、木材利用量 1,712 m³のうち約 75%に町産スギ材を活用。木材伐採場所は庁舎から目視できる。



☞ 町民ラウンジには、放課後の小学生、中学生などが集まり、用事がなくても、町民と顔をあわせ、一緒に楽しく活動することが出来る。温かみのある空間となっている。

☞ 多くの蔵書が詰まった図書館。
降雪により、外で遊べなくても、楽しく時を過ごすことが出来る。



5. おきたま木材乾燥センター [おきたま木材乾燥センター](#)

白鷹町庁舎建設で使用する地域材を生産するために地元の製材会社や建設会社6社の出資で2016年8月に設立された木材乾燥施設(木材乾燥機2基や自動4面かんな盤など)。
2019年3月にJAS機械等級区分製材の認定を受け杉KD材を供給

木材乾燥機と乾燥仕上げラインをご案内いただいた。

後日、町民に不安を与えないよう、耐力上問題のない乾燥割れについて、十分に事前説明して使用したとのこと。





👉丸太の口径から、無駄がでないよう、必要なサイズにカット

6. シェルターなんようホール(南陽市文化会館)[シェルターなんようホール](#)

竣工 2015 年 3 月

設計 大建設計

施工 戸田建設、松田組、那須建設 JV

ウッドデザイン賞 2015 年受賞作品

他の主な受賞歴

ギネス世界記録「最大の木造コンサートホール」認定

平成 26 年度 全建賞 建築部門受賞

平成 27 年度 木材利用優良施設 林野庁長官賞受賞

低炭素杯 2017 環境大臣賞 自治体部門金賞

第 1 回未来かがやくやまがた景観賞 山形経済同友会賞

第 17 回 公共建築賞 地域特別賞

大ホールと小ホールなどを有する日本初となる大型木造耐火施設として 2015 年に開館し、大ホールは「世界最大の木造コンサートホール」とし同年ギネス世界記録に認定。

「静けさと響きがよい音響空間」をコンセプトとしたコンサートホールは優れた音響で国内外のアーティストから人気を誇る。館内には木製遊具による「木育ひろば」もあり。



👉南陽市のスギ材の香りに包まれる空間。



👉木質耐火部材
COOL WOOD(クールウッド)
を柱に使用



👉数多くのエンターテイナーが演じている



👉残響時間 1.64 秒。

残響しすぎないことで、音がクリアに届き、聞きやすくなる。

反射音について、木造の場合は、高音を適度に吸収してから跳ね返す。これで、低音と高音のバランスがよくなり、木造ホールの響きはやわらかく感じられる。

7. 高畠町立図書館

竣工 2019年3月

設計 パワープレイス、寺田デザイン一級建築士事務所

施工 羽山総合建設、スズデン、ハギウダ

ウッドデザイン賞 2020年受賞作品

他の主な受賞歴

日本空間デザイン賞 2020 SHORTLIST 入賞

日本サインデザイン賞 2020 銀賞

高畠町立図書館は多様なヒトと多様なコトが交わり繋がる拠点『縁の母屋』をコンセプトに設計した。図書館機能としての多様な本を読む場所に加えて中庭や舞台、縁側など地域との交流スペースを設けることで地域の縁を繋ぎ、みんなを受け入れる母屋のようなあたたかく開放された施設を目指した。

地域の材料として、杉と、高畠石を積極的に活用した建物。太陽光発電や、自然落雪が出来る大きい片流れ屋根が特徴となっている。



👉 木柱に書架の側板の役割を持たせ、
家具と建築を一体化させている



👉 子供も楽しく過ごせるスペース





👉 展示室(写真中央奥)は、扉を全開にして、舞台にすることもできる。
左側のテラスは、椅子を出して座ることもできる。

8. 高畠町屋内遊技場「もっくる」、「コワーキングスペース」

竣工 2019年3月

設計 パワープレイス、寺田デザイン一級建築士事務所

施工 羽山総合建設、東北電化工業、金子建設

ウッドデザイン賞 2020年受賞作品

他の主な受賞歴

日本空間デザイン賞 2020 SHORTLIST 入賞

第14回キッズデザイン賞

高畠町屋内遊技場「もっくる」は廃校になった中学校の体育館を改修した屋内遊戯施設。木育を基本とした子育て支援を目的として、暑い夏や雪深い冬など四季を通じて親子で無料で遊べる施設である。また、単なる遊戯施設ではなく子育てを中心とした地域の連携が生まれるように設計、プロセスを通じて地域の方々と共に創った。



👉 廃校になった中学校体育館からもっくるに生まれ変わるまでの工事写真を展示



👉 子供の年代ごとにゾーニング。創造性・安全性・チャレンジ性のある木の遊具が揃っている。

「コワーキングスペース」

国の令和 2 年度補正予算で「地方創生テレワーク交付金」が創設された。交付金申請、採択を受け、地方への人の流れを取り込み、移住定住推進策の一つとして事業化した。総事業費約 2,100 万円弱のうち、一般財源約 160 万円弱で完成した。(残りはテレワーク交付金、国庫補助裏コロナ臨時交付金、コロナ臨時交付金)



👉産業振興センター内
旧美術室→コワーキングスペース
旧普通教室→サテライトオフィス



👉左奥の扉の中は、ミーティングルーム
となっている。